



巻頭言 『新学習指導要領 調整授業時数制度について』

理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理・化)

昨年末に文部科学省に理数教育の予算要望に伺いました。DX ハイスクールの予算が、引き続き措置されており、3 年目を迎えたデジタル人材の育成が重点政策であることを実感しました。その影響でしょうか本学の令和 8 年度開設の創域情報学部（情報理工学科）の志願者数は 4,295 名（2026 年 2 月 6 日時点）と人気が突出して、大学全体でも 6 万人を超えて 61,505 人（前年度比 113.2%）と増加傾向にあります。このことに奢ることなく、理窓教育会は、大学の側面的支援に貢献をしたいと思います。

高等学校では、現行の学習指導要領が 2022 年度（令和 4 年度）の入学生から年次進行で導入されて 4 年目となります。そこで、次の 2030 年度導入に向け、次期学習指導要領の議論がはじめられています。

次期改訂で文部科学省が掲げている基本的な考え方の柱は三つあると考えます。

一つ目は、これまで推進されてきた「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」のさらなる深化です。単に知識を覚えるだけでなく、子供たちが自ら課題を見つけ、他者と対話しながら考えを深め、答えを生み出していく力の育成が求められています。

二つ目は「多様性への対応」です。国籍や文化、心身の特性、家庭環境など、様々な背景を持つ子供たち一人一人が取り残されることなく、共に学べる環境をどう作るかという視点です。複層的に包摂するとのこと。

そして三つ目が「実現可能性の確保」。理想的な教育を掲げるだけでなく、それが教育現場で実際に機能するよう、現実的な仕組みを整えることも重要な課題とされています。今回の「調整授業時数制度」は、この三つの柱を実現するための具体的な方策の一つとして位置づけられています。

これは、これまで学習指導要領で定められていた各教科の「標準授業時数」を基準としつつも、一定の範囲内で各学校が授業時数を増減できるようにする新しい制度です。

学校が地域について学ぶ探究活動に力を入れたいと考えたとします。その場合、関連する社会科や総合的な学習の時間を少し増やし、代わりに他の教科の時間を少し減らす、といった柔軟なカリキュラム編成が可能になります。無制限に時間を変更できるわけではなく、子供たちの義務教育として必要な学習内容が損なわれないよう、一定のルールは設けられると思います。しかし、これまで学年・教科ごとに固定されていた時間割の枠組みが大きく変わることは間違いありません。この制度によって生まれた時間は、学校独自の教育活動に充てることができ、各学校が特色ある教育を展開しやすくなると思います。

理窓教育会では、大学の側面的支援の充実と今後の調整授業時数等の課題の研修を深めていきたいと思います。特に地方の皆様の加入者の増加を図り組織の SDGs を目指します。

(文華女子高等学校名誉校長)

支部活動報告

～ 21 支部の支部長様よりご報告を
いただきました ～

1 北海道支部

支部長 能登 啓児 (90 理・数)

今年度の北海道では夏は猛暑、冬には札幌周辺が局地的豪雪に何度も見舞われ、その度に多くの学校で臨時休校の措置がとられました。かつて「北海道には梅雨はない」と言われていましたが、最近では「蝦夷梅雨（えぞつゆ）」という言葉も定着しつつあり、気候の変化に悩まされることも多くなりました。

北海道支部では、昨年 9 月 28 日（日）に理窓会北海道支部と合同での支部総会を計 26 名の参加で開催し、常務理事の樋上賀一様、理窓会副会長の伊藤稔様にもご出席いただきました。ファイナンシャル・プランナーである支部会員の川崎慈千氏（89 理工・機）による講演「まだ間に合う保険選び～分かりやすい数理で紐解く～」を実施。まさに「目からうろこ」の話しを伺い、その後の懇親会では近況や大学時代の思い出について語り合い、最後には伊藤稔副会長のミニ講話もあり、大いに盛り上がる機会となりました。

また、3 月 20 日（金・祝）には、支部主催の初の試みとして全道の高校数学の教員を対象に、河合塾札幌校の石部拓也先生を講師として「高校数学教員交流研修会」を実施しました。支部会員を含む 20 名が参加し、新年度の授業づくりに向けて実践的なアドバイスをいただきながら、特に若手を中心に、授業力を高め交流する機会とすることができました。

北海道という広域な地域性もあり、多くのメンバーが集まることがなかなか難しい状況ではありますが、来年度以降も有意義な時間を共有する機会を模索していこうと考えています。

2 青森支部

支部長 村本 卓 (83 理工・電)

青森支部では、令和 7 年度支部総会を 9 月 20 日に開催いたしました。

当日はご来賓として安盛常務理事、増渕会長にご出席を賜り、総会後の懇親会を通じて会員相互の親睦を深めることができました。出席者は計 13 名でしたが、その内訳は高校教員 OB が 5 名に対し、現職教員は 0 名という結果でした。

また、8 月 15 日には毎年恒例の「第 22 回 おもしろサイエンス」を青森市アスパムで開催し、高校 OB 教員が中心となって手作り教材で子どもたちへ科学の楽しさを伝えました。こうした活動を支える OB 教員の高齢化が進む中、現職教員の総会参加が皆無である現状は、理窓教育会としての存続に関わる喫緊の課題です。今後の支部活動を維持・発展させるためにも、他支部の事例を参考にしながら、いかにして現職教員を引き込むか、その具体的な方策を考えていきたいと思えます。

3 岩手支部

支部長 佐藤 尚 (79 理・数)

岩手支部では例年 11 月に支部総会を開催しています。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により支部総会を中止し、令和 4 年度は情報交換会を行わずに事務的な総会とノンアルコールの食事会のみとなりました。令和 5 年度から、以前のような情報交換会・総会並びに懇親会を再開しております。

例年の支部総会では、小規模校・僻地校・通信制などの教育現場の情報提供や ICT 教育の実践報告をはじめ、会員の活動状況報告を行うなどの情報交換会を行っております。また、懇談会では楽器演奏などがあり、和やかに交流を行っています。

今年度の情報交換会では、岡崎建設社長の岡崎希裕氏から、バレーボールで街おこしに取り組んでいる実践報告が行われ、今学校現場で進んでいる部活動の地域移行のヒントに

なるお話を伺うことができました。

総会では、令和 6 年度の会計決算が報告され、また、現役員について、ほとんどの役員の再任が承認されました。本部挨拶・報告等では、浜本隆之理事長と石川正俊学長からのビデオメッセージの後、理窓会副会長の野村香織様からご講話をいただきました。懇親会では、フルートの演奏もあり、近況報告などで大いに盛り上がりました。参加者は昨年度よりも若干少ない 13 名となり、「こうよう会」岩手県支部長の沼崎千恵子様にもご出席いただき、父母会との交流を図ることもできました。今後、参加者を増やすことが課題となりますが、ひとまず以前と同様の総会・懇親会を開催することができてホッとしております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、ご支援ご協力をこれからもよろしくお願い申し上げます。

4 秋田支部

支部長 長岐 康彦 (83 理工・数)

秋田支部では教育会としての活動は特にはしていないので、総会の報告に替えさせていただきます。

総会には、理窓会会長増淵忠行様、こうよう会より秋田支部長横塚修一様、副支部長伊藤宏亮様の来賓 3 名を迎え、会員 13 名と合わせて 16 名の参加となりました。

議事では会務・会計・監査報告、及び役員改選がありすべて承認されました。役員改選では、支部長を含めほとんどの役員が入れ替わりました。新支部長には教育会支部長の長岐が就任することになりました。所信表明では、小松正孝(76 理工・数)前支部長がこれまで進めてきた若手会員の拡充の継続と活躍の場の創出、同じような課題を抱えた北海道・東北ブロックの連携から支部の活動に有用な情報を探っていきたいという 2 点が示されました。

理事長と学長によるビデオメッセージの後、「東京理科大学の現状と理窓会の活動に

ついて」と題し増淵会長より講話がありました。増淵会長は翌日にホームカミングディを控えているにも関わらず、前日に単独で秋田入りし、懇親会にも参加していただきました。

この後、秋田県林業公社主査の鎌田優(2013 理学研究科数理情報学専攻)さんが「林業の勘違い～FACTFULNESSで知識をアップデート～」と題した講演を行い、記念写真撮影・懇親会を含め総会も無事終了となりました。

今回の総会では、郵便料金の値上がり等もあり、開催案内に初めて QR コードによる出欠確認を導入しました。これについては幹事の木村康太(2009 理工・応生)さんが主導的な役割を果たしてくれました。受付や会費集金などは、会計の石崎遙(2009 経営・経営)さんが一手に引き受けてくれ、ここ数年に会員登録した若手が活躍してくれています。翌日がホームカミングディであったため、総会の参加者が 20 名を切ってしまったので、次回開催の折には是非多くの会員の皆様の参加を期待したいと思います。

5 群馬支部

支部長 新井 高広 (90 理工修・情)

令和 7 年 11 月 22 日、ホテルラシーネ新前橋において、理窓会群馬支部総会とあわせて理窓教育会群馬支部総会が開催されました。群馬県では例年、両会の総会を同日に開催しており、今年度も同窓生が一堂に会し、交流と情報交換の機会となりました。

総会では、理窓会群馬支部および理窓教育会群馬支部の会計報告や役員案について審議が行われ、いずれも承認されました。また、参加者同士が近況を報告し合うなど、和やかな雰囲気の中で会が進められました。

総会終了後には講演会が開催されました。講師として東京理科大学薬学部生命創薬科学科の萩原琢男教授をお迎えし、「アルギン酸と重金属の親和性を応用した社会実装の展開(群馬県の河川からレアアースは回収できるか?)」と題してご講演をいただきました。

アルギン酸が持つ重金属との結合特性に着目した研究を基に、環境分野への応用や資源回収の可能性について分かりやすくご紹介いただき、身近な自然環境を題材とした興味深い内容に、参加者一同大きな関心を寄せました。

一方、理窓教育会群馬支部としては、近年大きな事業を展開するには至っていないものの、群馬にゆかりを持つ同窓生同士のつながりをどのように維持し、広げていくかが引き続き重要な課題となっています。大学卒業後に県外で活躍する同窓生も多いことから、地元との関わりを持ち続けられるような仕組みづくりや、U ターン人材との連携などについて、今後も検討を重ねていく必要があります。

総会後には懇親の時間も設けられ、世代を超えた交流が行われました。久しぶりに顔を合わせる同窓生同士が近況を語り合う姿も見られ、同窓会ならではの温かな雰囲気の中で親睦が深められました。

今後も群馬支部では、このような交流の場を大切にしながら、同窓生相互のつながりを広げていく活動を続けてまいりたいと考えております。

6 埼玉支部

支部長 小久保 守 (88 理工・数)

埼玉支部では理窓教育会埼玉支部総会の他、年に 2 回の役員会（5 月頃、10 月頃）と講演会・懇親会（12 月）を実施しています。第 1 回役員会では総会の準備、第 2 回は講演会・懇親会の準備という位置づけで行っています。近年は、出席者の確保、効率化、利便性等を考え、理窓会埼玉支部総会と同日に理窓教育会埼玉支部総会を開催しています。

今年度の講演会は 12 月 6 日（土）大宮駅近くの会議室をお借りし、令和 7 年度理窓教育会埼玉支部講演会を行いました。講演会には理窓教育会会長富岡康夫様をはじめ、埼玉県教育委員会の皆様、そして今年教員になられたばかりの若い先生方から昭和 29 年に理科大を卒業された大先輩まで、22 名の幅広い世代の方々にお集まりいただきました。講師は、

現在 神奈川県立上鶴間高等学校の校長の柴田 功先生（理学部・物理学科）です。柴田先生は文部科学省「学校 DX 戦略アドバイザー」として全国的な教育の情報化にも尽力されています。また、文部科学大臣より「視聴覚教育・情報教育功労者賞」を受賞されるなど、ICT を活用した授業改善や教育実践において高い評価を受けていらっしゃいます。講演では「情報化の不易流行を考える ～AI 時代の情報教育～」をテーマに、先生の豊富なご経験と先進的な取組についてご講演いただきました。その後、懇親会で食事と歓談を楽しみながら、有意義なひとときを過ごすことができました。

結びに、東京理科大学、理窓教育会のますますのご発展と関係の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

7 千葉支部教職員部会

部会長 中村 孝幸 (90 理・化)

前任の県立千葉中学校・高等学校の高梨祐介校長から部会長を引き継ぎました県立茂原高等学校校長の中村孝幸と申します。鈴木隆文支部長のもと、教職員部会並びに支部会員相互の交流を深め、支部の活動の充実に努めてまいります。

令和 7 年度の活動についてですが、5 月 18 日（日）に事務局打合せを実施し、会計状況や役員会の進行を確認しました。その後、昼食をとりながら近況について意見交換を行いました。6 月 15 日（日）には役員会を開催し、総会準備や議事の確認を行いました。

8 月 9 日（土）には、支部及び教職員部会の総会・記念講演会・懇親会を開催しました。東京理科大学から石川正俊学長、安盛敦雄常務理事、松原秀成理窓会副会長、酒井陽太維持会長、富岡康夫理窓教育会長をはじめ、多くの来賓をお迎えし、総勢 59 名がポートプラザちばに集いました。総会では議事の審議を行い、新役員が承認されました。記念講演会では、石川正俊学長を講師に迎え、「AI 時代の科学技術の構造と社会受容性」というテー

マで御講演いただきました。石川先生はロボットが人間を越えるスピードで動き、認識するための「高速ビジョン」や「並列処理技術」の世界的な権威であり、研究成果を動画でわかりやすく御紹介いただきました。懇親会では多くの方に御登壇いただき、幅広い世代、そして近隣支部との交流ができました。また恒例となりましたが、ゲストの祥子さんによる美しい歌声も会場を魅了しました。年が明けた1月12日(月・祝)には、ホテルグリーンタワー幕張の日本料理みどりにて千葉支部の新年会を開催し、親睦を深めました。

近年、会合に若手教員や教員志望の学生が参加するようになりました。支部の活動が活性化してきましたがこの活性化を加速するためにも若い世代に交流を継続してもらえようような仕組みが必要です。千葉支部で伝統的に実施してきた研修会を復活させ、会員ネットワークの構築を目指していきたいと思ひます。

8 東京支部

支部長 富岡 康夫 (73 理・化)

例年、理窓教育会東京支部総会は、午前中前半、書面総会のための「理窓教育会(本部)理事会」開催後に実施されています。今年度は、5月25日(日)に実施されました。この形が教育会東京支部と全国理窓教育会との連携された総会になっています。

日頃の東京支部では、役員ほぼ全員がZoom会議に参加できる体制が整っています。本年度もZoom会議を中心に活動しました。

また、当日の午後に理窓会(本部)東京支部と教育会東京支部が共催となる懇親会を開催しています。

教育会東京支部の大きな活動の柱は、一つが「東京都管理職候補者面接研修会」の開催です。本年度の活動は、以下の通りです。

【実施期日】令和7年9月15日(日)午後

【面接官】高等学校：現・元校長……18名

中学校：現・元校長……7名

【面接参加者】

校長候補	高等学校……………	20名
	中学校……………	7名
	小学校……………	1名
副校長候補	中・高等学校………	8名

このように総計61名が関わり実践を継続しています。この面接研修会は、教育会東京支部の企画運営で行われますが、面接官・面接者は出身大学を問わず参加できるシステムをとり交流と研修の場になっているとともに回を重ねるごとに多くの管理職を東京都に送り出しています。今後も東京都の教育推進に寄与してまいりたいと思ひます。

そして、この活動の良い点は、活動の準備段階の中で、私ども企画する過程の中、現場の校長先生・副校長先生とのネットワーク化が進化してまいりました。特に高校のネットワークは力強くまとまっており東京都全体の話題になっているようです。中学校は、教育会の理事を中心とした区市町村の後輩校長・副校長さんなどに働きかけ参加体制を構築するよう努力を行っています。

二つ目が、東京支部として大学と連携を深めるため「若手教員ネットワークの会」の支援に全力で取り組みを進めています。今年度も10月26日(日)に第5回目の研修会・懇談会を開催いたしました。具体的には、本紙の別の項目にご報告いたします。この「若手教員の会」に教育会東京支部の会員の方々も参加され、理科大との連携に寄与できました。特に、理科大に科学コミュニケーション学科設置に関して、文部科学省からのアンケート調査に総力を挙げて協力いたしました。

「若手教員の会」は、理窓教育会として今後も支部活動の活性化のために大切になっていくと思ひますので重視してまいりたいと思ひます。なお、各地区の組織(北海道・新潟・愛知・岐阜・千葉・茨城・埼玉・神奈川・私立学校)などにも繋がりを持っていますので各支部活動に広がっていかれるように取り組んでいきたいと考えています。

9 富山支部

支部長 近藤 智久 (85 理・化)

8月9日、理窓会富山支部総会と併せて教育会富山県支部総会を開催しました。富山地鉄ホテルを会場に、31名が参加しました。増渕・理窓会会長、樋上・常務理事にご出席いただいたことに加えて、今回からは、北陸ブロック単位での交流を深めていこうと、山下・理窓会福井支部長、山本・理窓会石川支部長にもご参加いただきました。

総会終了後には、富山県立大学・バイオ医薬品人材育成講座の鳴瀬諒子教授に「医薬製造する人々の取組—昨今の薬不足問題を受けて—」と題して、薬の安定供給に寄与するため、国内のアカデミアにおける、医薬品製造の GMP のルールをきちんと理解し、実践できる専門人材の育成の取組の重要性などについてご講演いただきました。医薬品製造が盛んな富山において、富山の未来を担う大切な人材育成にもつながる貴重なご提言をいただくことができました。

すべての日程終了後、恒例の懇親会では、会員それぞれの近況報告と抽選会などで大いに盛り上がり、親睦を深めることができました。これからも、一人でも多くの会員の参加を募り、卒業生、修了生のネットワークの輪を広げていきたいと考えております。

10 石川支部

支部長 鈴木 啓泰 (86 理工・建)

私は、大学院修了後、東京のゼネコンに建築設備の技術者として就職しました。その後家業の建築設備会社を継ぐため、石川県に帰省して、約 30 年が経ちました。

理窓会石川支部総会には、早くから参加しておりましたので、理窓会も 30 回近く参加したことになります。2023 年 8 月総会で支部長を任されて、そろそろ 3 年経ちます。理窓教育会で言いますと、私は、会社経営の傍らで、石川県内の 2 つの大学と、1 つの高専で非常勤講師として建築設備を教えています。非常

勤講師の方も、かれこれ 20 年以上させていただいております。

今年度の総会・講演会では、『中食業界の動向と調理機器』というテーマでアサヒ装設(株)代表取締役社長の山本康太氏にご講演いただきました。講演後は会場のアサヒ装設で工場見学をさせていただき、最新の厨房機器見学や活発な質疑応答など大変勉強になりました。

講演後には、樋上東京理科大学常務理事、増渕理窓会会長ご出席のもと、総会を開催しました。総会では、支部長挨拶、事業報告、会計報告・監査・役員改選に続き、樋上常務理事による大学報告と石川学長のビデオメッセージ、増渕会長からの理窓会報告をいただきました。

懇親会は、金沢駅前に場所を変えて、支部長挨拶、来賓の皆さまのご挨拶と乾杯など盛大に親交を深めました。こうよう会からは片岡石川県支部長、中川副支部長にもご出席いただきました。

これからも、不慣れな支部長ではありますが、理窓会本部、他県の支部長様にもご指導を仰ぎながら、若い幹事の皆さまと一緒に、楽しくて役に立つ理窓会石川支部総会を開催し参加者を増やしていきたいと思っています。

11 福井支部

支部長 油谷 泉 (84 理・物)

福井支部では、会員の加入が進まず活動できていないことから、これまで東京理科大学こうよう会福井県支部の「講演会及び会員向け就活説明会」において時間をいただき、現役の学生・保護者向けに、本県の教員採用試験の概要や、取得資格・講師経験等に応じた加点制度などの情報提供をさせていただいたり、東京理科大学出身の若手教員に理窓教育会への勧誘を行ったりしてきました。

こうよう会の会合では、本県の教員の働き方改革がかなり進んできており、そういった情報も含めて教員を目指してほしい旨、説明させていただいたが、残念ながら来年度も教

員志望者がいない状況であった。また、知合いの校長から情報をいただき、今年度は 2 人の教員に理窓教育会への勧誘を行ったが、趣旨には賛同いただくもののよい返事をもらえず、今年度も会員の確保にはつながりませんでした。

理窓会福井支部においても、会員の高齢化が進む一方で新規会員の加入が進んでおらず、支部長とは別々に行動するよりも、まず理窓会に入ってもらい、親睦を深めていくなかで、理窓教育会独自の活動に拡げていくように進めていくことを相談させていただいています。何より本学出身者の把握が重要ですが、個人情報保護の観点から情報を得ることが困難で、教員に限らず同窓生の掘り起こしが進まないことが大きな課題であります。

他の支部においても本県と同様の課題をお持ちかと思いますが、各活動報告等を参考にさせていただき、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

12 山梨支部

支部長 橋田 多喜夫 (78 理・物)

理窓教育会山梨支部総会は毎年、理窓会山梨支部総会と合同で開催しています。本年度は 10 月 18 日 (土) 15 時から甲府市「シャトレゼホテル談露館」にて 5 名の参加で開催しました。

来賓として、東京理科大学常務理事樋上賀一先生、理窓会副会長上村直樹先生をお招きしました。東京理科大学石川学長のビデオメッセージが紹介されました。

樋上賀一先生から大学入試状況、特に山梨県志願者数・受験者数の報告があり、大いに関心のある内容でした。また、大学院進学率をはじめ理科大の教育力の高さを知ることができました。「中期計画 2026」が進行中であること、キャンパス整備、高大連携の強化、社会人教育 (リカレント教育) への取り組み、「TUS SciTech 構想」の策定、理学部「科学コミュニケーション学科」の新設、近代科学資料館の企画展の

紹介、創立 150 周年記念事業への協力など現状と将来展望をお聞きして、大きく変化した発展を続ける母校の様子を頼もしく感じました。

上村直樹先生からは、支部長会、支部活動参加促進補助金、代議員制度の在り方、ホームカミングデー開催、「鳥人間コンテスト」での理科大生の活躍、理科大出身の有名な、理窓会 LINE 公式アカウントなど、様々な取り組みをお聞きしました。

議事では、令和 6 年度の事業報告・会計報告、山梨県支部の活動報告がありました。今回参加者が少なかったため、今後、支部総会へ多数の会員が参加できるように取組を行っていくことを確認しました。

総会后、ご来賓の方々を招いて懇親会を行い、いろいろな話に花が咲いて時間を忘れる楽しいひとときを過ごしました。

13 信州支部

支部長 清水 史明 (63 理工・建)

理窓教育会信州支部についてご報告します。まず、信州支部という名称ですが、長野県は面積が広く、松本、諏訪、飯田などの地方は県庁所在地の長野市から遠く離れているため、「長野」の名称は長野市付近を指すイメージがあり、長野県全体を表現する言葉として古くから使われている「信州」が定着しています。例えば、長野県に置かれている国立大学も「信州大学」という名称です。そのような背景があるので理窓会の支部名称も「理窓会信州支部」としており、それに倣う形で教育会も「理窓教育会信州支部」としています。

理窓会信州支部は現在、公立諏訪東京理科大学教授の飯田洋一先生に支部長を担っていただいております。諏訪東京理科大学の卒業生も飯田先生を助け、信州支部は活発に活動しています。理窓教育会信州支部は教育会だけの活動は特に行っていませんが、理窓会信州支部の副会長に教育会から一人選出されています。教育会の総会も理窓会信州支部総会と兼ねて開催させていただいています。

数値で比較していませんが、近年、本県での理科大出身の高校教員は減少しているように思います。また、管理職の数も減少しています。長野県も教員不足の問題は深刻ですので、理窓信州支部の活動と共にこうよう会で教職をアピールするなど教員を目指す学生が増えるような活動と教育会独自の活動にも取り組みたいと思います。

14 滋賀支部

支部長 池田 健一 (85 理工・数)

理窓教育会滋賀支部は、2024 年度まで会員の名簿把握もできておらず、活動実態が全くない状況でした。2025 年度は理窓会滋賀支部の協力も得て、わかる範囲での会員名簿の作成に取り組みました。結果、退職者も含め、10 数名の教員経験者を確認し、現役の教育関係者は 5 名という状況でした。

6 月 1 日(日)に開催された理窓会滋賀総会に参加した教育会の会員 4 名には昨年度の教育会報の配布を行い、教育会の現状報告を行いました。また 6 月 29 日(日)に開催されたこうよう会滋賀支部の茶話会では、教育会の説明を行い、教員志望のご息がおられる場合にお声掛けをいただくように案内を行いました。本年度は教員志望の学生はありませんでした。

理窓会滋賀支部も以前は会員の多くが教員でしたが、現在の会員の多くは企業人となっています。また理窓会滋賀支部総会への現役世代の参加も少なくなっています。特に現役教員の参加は小数です。教育会滋賀支部は、今後、理窓会滋賀支部総会にあわせた教育会の情報交換会を開催するために理窓会滋賀支部と協力して、総会への参加呼びかけを強めて参りたいと思います。また今後もこうよう会滋賀支部茶話会で理窓会滋賀支部とあわせて教育会の紹介を行い、教員を目指す現役学生の支援につとめたいと考えています。

15 鳥取支部

支部長 倉光 博史 (89 理・数)

県として教育会総会を開くことが難しく、夏から秋にかけて開催される理窓会支部総会として行っているのが現状です。支部総会での参加人数の少なく、参加者も固定化されている感もあります。学校数も全国で最低数のため管理職そのものが少ない中、同窓教員が少なくなってきました。同窓教員も把握ができていないことも原因かと思えます。また、大学に入学する生徒も近年では少なく、その中で教員になる学生も減少していると感じています。大学選択の中で理科大を選択するために理科大のよさを PR していく教員を増やしていく必要もあり、さらに県外の学生であっても本県の教員を選択してよかったと感じるような工夫を模索していく必要があります。

今後、大学との連携を図るためにも県内同窓生の把握や理窓会支部総会の参加者の拡大をしながら教育会の維持発展をしていきたいです。

16 岡山支部

支部長 三浦 康男 (71 理工・数)

今から何十年も前に、私が理窓会岡山支部総会に参加したときに、参加者から「この総会は教員の会か、もう来年からは来ない。」と言われました。最近では、教員出身者とそれ以外の人参加状況は半々になりましたが、学校の状況は年々変化してきましたので、教育について語り、少しでも学校現場を助けたいとの思いから理窓教育会を設立しました。

私は教員の出身で、理窓会岡山支部長をしていたので兼務しました。過去の経緯から、理窓教育会の総会は、理窓会の総会とは別々にすることになり、何回かは開催し有意義な会ができました。

しかし、ここ何年かは学校現場が忙しくなり、今まで開催していた夏季休業中の開催が難しくなり、総会も殆どの参加者が教員ではなくなったため、総会を支部総会と兼ねて実

施しています。

教育の問題は重要であり、幸い岡山県の倉敷市、瀬戸内市の教育長は理窓会岡山支部の会員でもあるため、いろいろ相談に乗ってもらっています。

大学を卒業して岡山県内に就職するのは、教員または地方公務員が多いと考えられるので「こうよう会岡山県支部」との連携を重視しています。

幸い「こうよう会岡山県支部」の支部長は、現在理窓会岡山支部の会員でもあるので、今まで以上に連携を密にして生きたいと思いません。

なお、会員の中には過去において使用試験での面接官経験者もいるため、過去と現在では異なることもあります。何かのお役に立てばと思っております。また、今年は理窓会全国支部長会とこうよう会岡山県支部の会が日程的に重なり、こうよう会に参加できませんでした。

17 広島支部

支部長 板倉 宏治 (58 理・応数)

広島県支部総会は、9月28日に理窓会支部総会と合わせて開催しました。理窓会支部総会には、大学より常務理事安盛敦雄様、理窓会会長増淵忠行様に加え、こうよう会広島支部より山口茂範支部長、さらに本年度は、島根県、岡山県、鳥取県の各支部より支部長の福田正様、三浦康男様、齋尾宏伸様にご出席をいただきました。

理窓会支部総会では、石川正俊学長からお届けいただいたビデオメッセージを拝聴し、安盛敦雄常務理事より大学の現状について詳しくお伝えいただきました。その後、増淵忠行会長より、理窓会の活動についてお話いただきました。

また、以前は総会において、卒業生による講演会を実施しておりましたが、コロナ禍もありしばらく実施できていませんでした。しかし本年度は、国研産業技術総合研究所の中山超研究員(2015 理学部第二部・化学科卒)よ

り、「バイオマス×AIで創るーセルロース素材開発」という演題で講演をしていただき、参加者一同、非常に興味深く聴かせていただきました。

教育会支部総会は、理窓会支部総会・懇親会に先立って行い、昨年度からの経過報告、会計報告に加え、理窓教育会総会の内容、各支部の取組についても共有を図りました。それをもとに、教育会広島県支部の活性化に向けての意見交換を行いました。現在、支部教育会の会員は高齢化が進み、会員数も年々減少する状況にあります。そこで、支部の繰越金に多少の余裕がみられたため、東京理科大学維持会から発行された秋山仁氏編著の「月桂冠は君の頭上に輝く」を参加者に配布し、参加が叶わなかった会員の皆様には、総会資料とともに送付しました。

理窓教育会報を見る限り、広島県での理科大出身教員は、近年非常に少なくなっています。このような状況下、11月にはこうよう会広島支部において就職説明会が行われ、理窓会広島支部前眞一郎支部長より、広島県の教員採用の現状や採用後の教育会支部としての支援のあり方等について、説明がなされました。こうした連携を通じて、理科大出身の新規採用教員の増加を図るとともに、支部会員交流の活性化、活動状況の情報発信を通じて、若手・中堅の理科大出身教員の相談役、よりどころとしての役割を果たせるように努力していきたいと考えています。

今後、他支部の活動を参考にさせていただき、本県支部の活性化に努めていきたいと考えています。関係者の皆様におかれましては、広島県支部へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

18 徳島支部

支部長 濱本 寛信 (86 理・応数)

諸般の事情により長らく開催することのできなかった、校友会理窓会徳島支部総会を11年ぶり、令和5年12月に開催いたしました。

た。そして、令和 6 年 11 月には復活第 2 回目を開催、さらに今年度は来賓として、理事会から安盛敦雄常務理事、理窓会本部から増淵忠行会長、香川支部から上野準一支部長をお迎えし、令和 7 年 11 月 1 日に開催いたしました。理窓会徳島支部総会は一昨年度に復活後、3 年連続で開催でき、来年度以降も毎年開催することになりました。また、今年度新たな取組として、総会の中に同窓生による講演を加え、今年度は、大塚製薬取締役、兼子明美さん（理学部化学科卒）に講師をお願いし、「私の履歴書・大塚製薬に入社して」という演題でご講演をいただきました。出席者からは次年度以降も続けて欲しいという要望が多数あり、次年度も引き続き、講演を加え、総会を実施していこうと思います。

今年度は総会開催案内を 281 名へ送付し、出席者は 20 名でした。うち、理窓教育会徳島支部会員である教育関係者は退職者を含めて 6 名でした。連絡の取れる徳島支部所属の卒業生はすべての職種を含めても約 300 名程度ですので、今後も校友会理窓会徳島支部総会と合同で理窓教育会徳島支部総会を開催していきたいと考えています。

一方、徳島支部において、教育関係者の把握が十分できていません。次年度以降も教育関係者、すなわち、理窓教育会徳島支部会員の掘り起こしと把握に努めたいと思います。

理窓会徳島支部もやっと組織として動き始めたところですが。来る令和 8 年度も理窓会徳島支部総会、理窓教育会徳島支部総会の開催と理窓教育会徳島支部活性化に向け、引き続き頑張っていきたいと思います。関係者の皆さん、ご支援をよろしくお願いいたします。

19 佐賀支部

支部長 吉山 耕一郎 (84 理工・数)

開催日時：令和 7 年 2 月 15 日（日）10 時
～14 時

会 場：「シャンリー」（佐賀市駅前）

参加者数：19 名

本部より、理窓会会長 増淵忠行様、東京理

科大学常務理事 樋上賀一様を来賓としてお迎えし、佐賀支部では 3 年連続となる支部総会を開催いたしました。

増淵理窓会会長からは、①理窓会の年間三大行事（新年茶話会・代議員会・ホームカミングデー）について、②創立 150 周年記念事業についてご説明いただきました。あわせて、本年 3 月をもって会長を退任されることが紹介され、「私の履歴書～わが人生三万日～」と題した記念講演が行われました。講演では、幼少期から中学・高校時代の思い出、そして大学時代には常に最前列で講義を受け続けたことや、3 年生の夏休みに九州一周旅行をされたことなど、大変興味深いお話を拝聴いたしました。現在も多くのご友人に恵まれ、母校の校長室前には会長のブロンズ像が飾られているとのご紹介もありました。

また、樋上常務理事からは、「東京理科大学の展望」と題し、①中期計画 2027、②学部・学科の改編、③「教育力・研究力が高い大学」として私立大学第 1 位に評価されていること、④佐賀県からの入学者数の状況等について、詳しくご説明いただきました。

総会では、以下の議題が提案され、いずれも承認されました。

議題 1 2024 年度支部活動報告・決算報告
ならびに 2025 年度支部活動計画・予算案

議題 2 支部規約の改正

その他の事項として、①総会参加者増加に向け、会員情報の提供についてご協力をお願いしました。②前日（2 月 14 日（土））に校友会理窓会九州連合が設立されたこと、ならびに次回開催地が福岡であることを報告いたしました。

懇親会では、参加者全員による近況報告や情報交換を通じて親交を深めました。また、理窓会本部が把握している県内会員全員へ案内状を送付した結果、昨年度に引き続き、本年度も初参加の方が 2 名ご出席くださいました。さらに、福岡支部長 永島様、こうよう会九州・沖縄地区副会長 宮良様、佐賀県支部長 田尻様にもご臨席いただき、支部活動の一層の活性化につながる有意義な会となりました。

20 熊本支部報告

支部長 光永 幸生 (86 理工・数)

熊本県では、理窓教育会の活動を独自には行っておりませんでした。昨年2月の教育会全国支部長情報交換会の際に得られた他県の活動を参考に、昨年の11月1日に、初めて理窓教育会の集まりを理窓会熊本支部の総会・懇親会と同時に行うことができました。無理をお願いしました理窓会熊本支部の十時晨爾支部長には感謝申し上げます。

コロナも間に挟まり、名簿が整理されていない状況ですが、当日は学校関係では7名の方の参加があり、とても喜んだところです。本県にも20名近くの理科大出身の方が教育現場でご活躍ではないか推察されますが、更にお声を掛けさせていただき、いろいろな学校間の情報交換や連携に努めていきたいと感じました。

余談になりますが、会の当日、秋山仁先生編著（東京理科大学維持会発行）の「月桂冠は君の頭上に輝く」を購入させていただきました。初代校長寺尾寿先生の当時のご苦労や教育哲学に触れ、まだまだ私自身も頑張っていかなばと気持ち新たにしました次第です。今後ともご指導等よろしくお願いたします。

21 宮崎支部

支部長 児玉 康裕 (87 理・化)

今回も本県の教員採用に係る話題で支部報告に代えさせていただきます。

宮崎県では、教員採用選考試験における出願者の確保を目的として、より多くの方に教職を志していただけるよう、さまざまな取り組みを進めております。具体的には、年齢制限の撤廃や社会人採用枠の導入により、幅広い世代の方が受験しやすい環境を整えています（他県においても同様の取組が進められております）。また、宮崎大学教育学部に地域枠を設け、地域に根ざした教員の育成にも力

を入れており、本年度はその一期生が選考試験に臨んでいるところです。

さらに本年度からは、教職を志す意欲のある人材を早い段階で確保することを目的として、大学3年生を対象とした「チャレンジ試験」を新たに導入しました。これにより、学生が早い段階から教職への関心を高め、計画的に準備を進められるよう支援しております。

このほか、教職の魅力を分かりやすく伝える取組として、将来を担う中高生を対象に、若手教員が自身の経験を交えながら教職の魅力ややりがいを直接伝える「ひなた教師ドリームカフェ」を実施しております。加えて、教員免許は取得しているものの教職経験のない、いわゆるペーパーティーチャーの方々安心して教壇に立てるよう、丁寧な説明会や研修会を行うなど、幅広い年代や経歴の方に配慮した取組も進めています。

人の人生に深く関わり、未来をつくる仕事に挑戦したいという方々の力を宮崎県は求めています。

本部活動報告

2025 年度

第 16 回坊ちゃん科学賞研究論文
コンテスト実施報告

実行委員長：松原 秀成 (70 理・物)

第 16 回「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト発表会」が、去る 11 月 9 日（日）に神楽坂キャンパス 2 号館 211 教室で開催されました。本年度は、全国 35 都道府県の 114 校の高校、研究論文数 266 件、参加生徒数 763 名、指導教諭 240 名の方々が本コンテストに関わり、昨年を上回る実績となりました。

厳正な審査の結果、最優秀賞には、愛媛県立松山南高等学校の共同研究（下敷班）

「下敷変形時の発生音に関する研究（物理分野）」が選出されました。そして、優秀賞は

4校、東京科学大学附属科学技術高等学校、学校法人静岡理工科大学静岡北中学高等学校、千葉県立柏高等学校、兵庫県立小野高等学校に授与されました。



本コンテストは、コロナ禍にあっては、対面ではなく東京理科大学と各高等学校をオンライン方式でつなげて開催を維持してきました。昨年度より完全対面方式で発表会を開催することができました。やはり対面によるプレゼン発表会は臨場感にあふれ生徒たちの発表する意欲が会場中に響き渡ります。発表してくださった5校の生徒の皆さんに敬意と感謝を申し上げます。

今年度の第16回「坊っちゃん科学賞コンテスト」では、過去15年間審査委員長をお務めいただいた秋山仁先生（科学教育学者、東京理科大学栄誉教授）から、渡辺一之先生（物理オリンピック日本委員会理事長、元東京理科大学副学長）にバトンが引き継がれました。

東京理科大学学長である石川正俊先生は、今年で4回目のご出席となります。しかも、すべて開会から閉会まで参観され、生徒たちのプレゼン発表をご覧いただきました。今回も、石川学長先生が主催者を代表したご挨拶をされましたが、生徒の皆さんが瞳を輝かせて聴いていた光景がたいへん印象的でした。石川学長は、「研究テーマを選ぶとき、今までにないことを見つけ、おかしいと感じる力をもつこと、へそ曲がりになれということ、変だなと思う気持ちをもつこと、この先はどうなっているのだろうと考えることが重要」という激励の言葉を交え、「科学する生徒」の皆さんに語りかけてくださいました。

新審査委員長の渡辺一之先生は、講評の最後に寺田寅彦先生のお話を引用されました。「山登りは、ゆっくり登ると足元のきれいな花を見つけられる。なぜだろうとじっくり考える力が大切。そして、好奇心を大切にしてほしい」というお話をされました。石川学長先生のとおり同じように、生徒たちは瞳を輝かせて聞き入っていました。研究者のお話を間近で聞いた経験は、必ずや今後活かされると思います。

結びに、本コンテストにご応募いただいた全国35都道府県114校の高校生およびご指導いただいた諸先生方に再度敬意と感謝を申し上げます、報告とさせていただきます。

全国支部長オンライン情報交換会 報告

理事：松本 明（82 理・数）

去る2月15日（日）午後7時から、Zoomによる全国支部長オンライン情報交換会が開催されました。参加者は下記のとおりです。

【支部長】能登氏（北海道）、佐藤氏（岩手）、金子氏（秋田）、小久保氏（埼玉）、中村氏（千葉）、田中氏（神奈川）、清水氏（信州）、池田氏（滋賀）、濱本氏（徳島）、光永氏（熊本）

【本部役員】富岡会長、松原総務理事、前田理事、平岡理事、長野理事、松本理事

各支部長から現状と課題が報告されました。ほぼ全ての支部から、・会員の高齢化が進んでおり、参加者が減少傾向にある、・若手の参加者が増えない、・そもそも会員を把握する手段がない、などの意見が出されました。個人情報保持管理が求められる昨今、難しい問題となっています。そのような状況の中ではありますが、以下のような工夫をされている支部がありました。

1. 支部総会と教育会総会を同日開催して、多くの同窓生と情報交換する機会を作る。

2. こうよう会の総会に出席し、保証人様との関係を構築する。

3. 若手教員対象の「授業づくり研修会」を、同窓生だけでなく広く参加者を募り開催した。

4. 支部総会に参加した若手教員から直接連絡先を得て、その後の情報提供を行なった。

さらに富岡会長からは、・理科大は 2031 年に創立 150 周年を迎える、・2026 年度から創域情報学部（野田）と科学コミュニケーション学科（神楽坂）が新設される、・今年度の受験者数が 6 万人を突破、理科大が評価されているが、これも教育会の皆さんのおかげである、・DX ハイスクール事業が始まって 3 年目を迎えている、などといったお話がありました。

ノーベル平和賞を受賞した田中先生をはじめ、各界で活躍されている卒業生が大勢いて頼もしい限りです。そういった同窓生のネットワークを大切にいきましょう。

来年度もこのようなオンライン会議を引き続き開催しますので、是非とも多くの皆さんのご参加をお願いします。

先進的な取組に学ぶ

**SSH（スーパーサイエンスハイスクール）
の取組について**
愛媛県立西条高等学校教諭
大久保 正明（2024 創域理工院・教）

2024 年 4 月より、初任者として愛媛県立西条高等学校に勤務しております。西条高校は東予地区で唯一の SSH 指定校であり、日々多くの刺激と学びのある環境の中で教育活動に携わっています。今回は私自身が体験してきた本校の SSH の取組について紹介します。

本校では、独自の取組として、1 年次に「有法子（ゆーふあーず）」、2・3 年次に「マルチサイエンス I・II」という研究授業を実施しています。「有法子」は、本校卒業生であり国鉄総裁も歴任した十河信二氏の言葉「まだ方法がある、もっと努力しよう」に由来する授業です。

有法子では、市役所や地元企業などから講師を招き、地域課題についてお話しいただいております。また、複数回の授業を通して、地域の経済や国際をテーマとした探究活動を行っています。内容は調べ学習が多くなっていますが、生徒が課題を自分事として捉え、発表の経験を積む貴重な機会となっています。

2・3 年次のマルチサイエンスでは、生徒が興味のある分野ごとに分かれ、班単位で研究テーマを設定し本格的な研究活動に取り組みます。必ずしも全員が第一希望の分野に進めるわけではありませんが、各班に担当教員が付き研究の進め方などを支援しています。

昨年度、私は「2030 年ごろの理想の街」をテーマに、合計特殊出生率を高める要因を統計的に分析する班と、生成 AI を活用した「AI チャットボット」をテーマとする班を担当しました。研究の中では生徒から鋭い視点や独創的なアイデアが多く生まれ、それをどのように形にしていけるかを一緒に考える過程に、指導の難しさと面白さを感じました。

今年度は「グラフにおける Nim ゲーム」をテーマに、私自身の修士論文の内容をもとに生徒と共同研究を進めています。通常の授業とは異なり、生徒が主体的に試行錯誤しながら研究を進める姿が見られ、数学的に考える楽しさを実感している様子が印象的です。修士論文から発展した成果も得られており、発表に向けたまとめに取り組んでいます。

こうした研究活動を通して、生徒は自ら課題を設定し、考え、調べ、表現する力を身に付けています。その経験は進路選択にも生かされ、難関大学への推薦合格にも繋がり、国公立大学合格者数 4 年連続 100 名超という成果も得ています。

外部大会への参加や大学との連携、海外研修などを通して、西条高校の生徒たちは多様な場面で力を発揮しています。今後も、生徒とともに研究を楽しみながら、母校東京理科大学のご支援もいただきながら、本校 SSH の取組をさらに充実させていきたいと考えています。

「科学の甲子園」「科学の甲子園
ジュニア」の取組と課題
JST 理数学習推進部主任専門員
今西 善徳 (84 理・数)

私は昭和 59 年に理学部数学科を卒業後、埼玉県立高等学校に勤務し、定年退職後は国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 理数学習推進部で次世代人材育成事業を担当しています。日頃より、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) をはじめ、「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」等の事業に格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

JST 理数学習推進部では「理数系に優れた素質を持つ子供たちの才能の伸長」と「理数好きの裾野拡大」を目標に、SSH、国際科学技術コンテスト支援、グローバルサイエンスキャンパス、ジュニアドクター育成塾、次世代科学技術チャレンジプログラム、女子中高生の理系進路選択支援プログラム、アジアサイエンスキャンプなど、多様な取組を通じて、将来の科学技術を支える人材の育成に努めています。その一つが、「科学の甲子園」および「科学の甲子園ジュニア」です。

これらの大会は、全国の中・高校生が理科や数学、情報、ものづくりなど幅広い分野の知識と活用力を競い合う場として創設されました。高校生版は平成 23 年度、中学生版は平成 25 年度にスタートし、各都道府県大会で選抜された代表チームが全国大会に参加します。筆記競技では単なる知識の再現ではなく「知識をどのように活用するか」が問われ、実技競技ではものづくりやコミュニケーション能力などを用いた課題解決能力が求められます。そのうち 1 競技は事前公開競技であり、協働による課題解決を重視している点が特徴です。

大会後のアンケートによれば、多くの参加者が「理科や数学への関心が高まった」「将来の進路を考えるきっかけになった」と回答しており、参加 OB、OG は大学・研究機関・企業など科学技術分野の最前線で活躍しています。大会が人材育成の入口として一定の成

果を挙げていることは、大変心強いことです。

一方で、運営を通じて見えてきた課題もあります。第一に、都道府県大会の参加者数を増やし、事業をより広く周知していくことです。現在、参加校数・参加人数は横ばいで推移しており、都道府県による差も大きい状況です。教育委員会を通じてポスターを配付していますが、生徒へ直接情報を届けるため、近年は SNS の活用にも取り組んでいます。「科学好きの裾野を広げる」ためには、新たな戦略の工夫が不可欠です。

第二に、都道府県予選を担う教育委員会および学校現場の負担です。生徒を直接指導する先生方の負担はもちろんですが、全国大会の性質上、都道府県予選の実施は必須であり、教育委員会の負担も大きくなっています。費用支援や運営方法の共有など負担軽減策を講じていますが、より持続可能な運営体制をどのように構築するかは引き続き検討すべき課題です。

第三に、競技問題の質を維持・向上させることです。科学的興味を喚起し、探究心をそそる問題、発見を導く実験・検証、ものづくりやコミュニケーション能力が発揮される課題など、多様な要素を高い水準で満たす必要があります。これらの観点を踏まえ、組織的に競技内容の充実を図っています。

母校である東京理科大学は「教育力が高い大学」「研究力が高い大学」として高く評価されています。「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」もまた、未来の科学技術を支える人材育成に一層貢献できるよう取り組んでまいります。

引き続き、JST 各事業へのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

◆ 「理窓 2026 春号」のデジタルブックは、理窓会の HP に掲載されています。



デジタルブックはこちら

若手教員ネットワークの会特集

**2025 若手教員ネットワークの会
報 告
理窓教育会理事
松原 秀成 (70 理・物)**

～ 第 5 回懇談会・懇親会を開催 ～



第 5 回 若手教員の会懇談会・懇親会の様子

◆開催日程など

2025 年 10 月 26 日 (日) 13:00～16:30
PORTA 神楽坂 6 階・理窓会倶楽部にて

◆参加者内訳

若手教員 30 名。教育会 OB 等 19 名
(眞田克典教授、富岡康夫教育会会長、教職
課程指導室の先生方を含む) **総計：49 名**

【第一部：懇談会】

〔テーマ〕教育活動・実践などの悩みについて
～教科指導・生徒指導・学級経営・人間
関係など～

・上記写真のように、若手教員と教育会 OB
が 5 グループに分かれて忌憚なく懇談を深め、
先輩教育会 OB より応援・参考のアドバイス
が送られた。

◎要約

- ・不登校児童・生徒への対応、授業でのタブ
レット活用含む ICT への実践。
- ・全日制・定時制・通信制・公立・私立など、
環境の差異による実践について。
- ・職場環境の悩み、相談できる雰囲気之苦慮
することがしばしばある。等々。

◎まとめ

- ・児童・生徒がワクワクする授業を展開する

ために、子どもたちを引き付ける教材をどの
ように作るか。

・校種による教育実践の大変さなどの意見交
流から、多岐にわたる教育実践の研修の場と
なりました。

【第二部：懇親会】

懇談会後、並木康訓幹事（都立隅田川高校
勤務）の司会で会がスタートした。乾杯の発
声を教育会理事の小久保正己先生が行い和や
かな雰囲気の中の懇親会となりました。

5 グループ毎の懇親会で始まったが、先輩
OB の先生方が席を移動されたり、若手教員
の皆さんが自由に席を移動したり、懇談会で
話された悩みなど、気兼ねなく出されている
光景は本当によかったと思いました。会も終
盤となり、中締めを並木正理事、そして最後
に本会の平野敏詞幹事長（日本大学第二中学
高校勤務）の挨拶で終了となりました。

若手教員の会「懇談会・懇親会」は、今回
で 5 回目となりました。参加された若手の皆
さんは、公立小学校・公立中学校・公立高等
学校（全日制・定時制）・私立中学高校・通
信制高校など多岐にわたりました。校種によ
る交流、公立・私立の特色への交流など、今
後の教育実践に活かせる場になったのではな
いかと思います。しかも、若手教員が理科大
時代にご指導をいただいた眞田克典教授をは
じめ、歴任教職指導室の専任教員の先生方の
アドバイスも参考となったと思います。

「若手教員ネットワークの会」は、理科大
出身の同窓生が集まった会です。忌憚なく悩
みや教育実践を出し合い、交流し合いながら、
互いに切磋琢磨し子どもたちの健全育成に寄
与していくために引き続き開催してまいりた
いと思います。そして、若手教員の皆さんが
各地区で教育会及び理窓会の諸活動に参画で
きることを目指すことができますよう、各地
区教育会先輩の皆様にはご支援を賜ります
ようよろしくお願いいたします。

ネットワークの会の先生方からの実践報告

『小学校教員として大切にしていること』



(東京都) 国立市立国立第五
小学校教諭 岩城 陽子
(2010 理専・化)

小学校の教員になって8年が経ちました。私が教師を続けている原動力、それは子どもたちが授業や活動の中で、目をキラキラさせて「楽しい!」「もっとやりたい!」と夢中になっている姿を見ることです。教室中が「わかった!」という熱気で包まれる瞬間、私は心の中で小さくガッツポーズをしています。しかし、そんな時間は魔法のように自然には訪れません。私自身が最も大切にしていることは、「徹底的な準備」です。授業が盛り上がるかどうかは、当日の私のテンションではなく、実はその前日までの「仕掛けづくり」で9割決まると思っています。「ここでつまづく子がいないように、この図を使おう」「あの子が輝けるように、この役割を任せてみよう」。そんな風に子どもたちの顔を思い浮かべながら準備をする時間を一番大切にしています。

そう強く思うようになったのは、特別支援学級の担任をした経験が大きいと思います。以前、集団行動が苦手で、行事のたびに「やりたくない」と塞ぎ込んでしまう子がいました。私はその子の特性をとことん分析し、その子が安心して参加できる手順書を作ったり、得意な手作業を活かせる場面を活動に組み込んだりしました。徹底的に準備をして臨んだ当日、その子が誰よりも生き生きと活動し、「先生、楽しかった!」と満面の笑みを見せてくれた時。そして、その経験が自信となり、その後の成長に繋がった時。あの時の感動は、今の私の教師としての背骨になっています。

「ああ、準備をしてよかった。教師をやっている本当によかった」と、心から思えた瞬間でした。

教師の仕事は、華やかな舞台ばかりではな

く、地道な準備や教材研究など、見えない努力の積み重ねだと思います。その泥臭い準備の先にこそ、子どもたちの最高の笑顔と成長が待っていると信じています。大変だけれど、とびきり面白い。そんな教師の世界で、これからも頑張っていこうと思います。



『今日までの教員生活』

(東京都) 葛飾区立奥戸
中学校教諭 伊野瀬 民夫
(2014 理二部・物)



私は理科大を卒業し、教員生活 12 年目を迎えました。理科大卒業直後、私は、千葉県私学である八千代松陰学園の非常勤講師として着任し、中学生の理科と高校生の物理基礎を担当させていただきました。私にとりこの1年間は自分自身の授業力向上の礎になったと感じています。

その後、東京都江戸川区立小岩第五中学校に専任教員として着任しました。ありがたいことに中学1年生の担任となりました。そして、授業以外に校務分掌・行事運営・学級経営に全力で取り組みました。この間、7年間連続で担任を務め、3度卒業学年を担当させていただきました。日々悩むことも少なくありませんでしたが、教材研究を継続し、生徒からも(それなりに)信頼され、充実した毎日を過ごすことができました。

現在、3校目となる葛飾区立奥戸中学校に異動となり、進路指導主任を務めました。そして翌年、学年主任を仰せつかり現在に至っています。

自分自身の生活では家族が増え、子育てに費やす時間も増えました。それらから、以前と同じように「生徒と向き合えていない」と感じるような余裕のない毎日を過ごしているような気がしてなりません。さらに学年教員が相次いで病休となり厳しい学年経営となりました。自分が大切にしていた「生徒と向き

合う時間」、「教材研究する時間」が削られ、自身が本当に昇任すべきだったのか、とつい考えてしまいます。

しかし、このような諸課題に遭遇することは、教員には必ずあるのではないかと思います。これらの課題を乗り越えるためにも主任として、学年の同僚の先生方とに協働し、相談し合える雰囲気づくりに努めなければならないと強く思うこの頃です。現在、理科大を卒業された私と同世代となる数学の先生が着任されました。学年所属は異なっていますが本校生徒の健全育成を共通の課題と捉え日々教育実践に努めている現在です。

そして私自身、今後も悩むことは少なからずあると思いますが、私の家族5人で支え合いながらこれからも人として、教員として「正精進」できるよう努めます。

同窓生の活躍

高校数学教員から特別支援学校
教員、そして管理職へ
都立永福学園校長

三浦 昭広 (91 理二・数)

理窓教育会の皆様には、東京理科大学の発展へのご尽力、同窓生等の情報発信をいただいていることに敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

私は、理学専攻科修了後に都内の私立高校で数学科教員として勤務しました。その後、縁あって東京都立の特別支援学校で勤務することになりました。

現在、東京都立永福学園という特別支援学校の校長を務めています。本校は、平成19年度に軽度知的障害のある高校生が卒業後の企業就労を目指す都立初の高等部就業技術科として開校しました。平成21年度には肢体不自由教育部門が地域の大きな期待のもと併置されました。

特別支援学校の指導の要は個に応じた指導です。個に応じた指導を通し子供の将来の自立と社会参加を見据え、もっている力や可能

性を最大限に伸ばすことが使命です。私は、個に応じた指導の一層の充実を図るため、保護者の方との共通理解を深めた個別指導計画の作成とICT機器活用の推進を学校経営の重点目標に位置付けています。ICTの活用では外部専門家による校内研修や教育委員会の研究校の指定などを通し活用を推進しています。成果として、アプリやAI等を活用した授業が多く見られるようになり、個に応じた指導の一層の充実が図られています。今年度の学校評価アンケート「個に応じた指導の充実」に関する保護者の肯定的評価割合は90%超でした。高等部3年生の進路は現時点で、肢体不自由教育部門は決定率100%、就業技術科の企業就労率は90%以上を達成しています。

また、令和5年度と6年度に全国特別支援学校長会の会長を務めました。毎年6月に開催している全国特別支援学校長研究大会では、全国の校長が約900名参集するなか、文部科学省の施策等に即した学校課題の共有や改善に向けた方向性などを発信しました。文部科学省やこども家庭庁に現状と課題を踏まえた予算要望を行うなど、全国の特別支援学校の教育力向上と環境整備、特別支援教育の推進に取り組みました。

令和6年にはスポーツ庁のスポーツ審議会健康スポーツ部会障害者スポーツ振興ワーキンググループ委員を務めました。特別支援学校校長の立場で障害のある方々のスポーツ振興に向け、指導者の育成や安全安心にスポーツに取り組めるための環境整備について意見を述べました。第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の委員も務めました。国の施策や方向性の立案に関われたことは、大きな成果であり貴重な経験でした。

振り返ると、東京理科大学は私が高校時代に尊敬していた数学の先生の母校でもあります。今の私があるのは、東京理科大学での学びがあったからこそと感謝しています。

結びに、東京理科大学と理窓教育会のますますのご発展と関係の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



教職課程指導室の役割と 大学との連携

嘱託専門員

柏木 信一郎 (84 理・応数)

現在、教職教育センターの教職課程指導室に在籍しています。教職課程指導室は神楽坂 8 名、野田 3 名で構成されており、皆、中学または高校の教諭としての実務経験と校長としてのマネジメントの経験を持っています。

我々の使命は、教職課程を選択した後輩の学生たちがよりよい教員となるために、質の高い授業を展開し教員免許取得をサポートするとともに、希望する学生が教壇に立つことができるよう教員採用試験を中心に助力していくことだと考えています。

教職課程の授業の中で各種指導法（数学科指導法、理科指導法など）や教育実習関係、教職実践演習など実践を中心とした授業を担当し、学生に教員としてどのように生徒に接するか、何を生徒に伝えていくか模擬授業など実践を通じ指導しています。また、学生の教育実習については、事前のガイダンスや訪問指導、事後指導により充実したものとなるよう努めています。

教員採用試験に向けては、3 年の秋から日曜日に全 9 回の講座（教職教養、論作文、専門教養）が始まり、年明け 2 月には私学対策講座（1 日）、春期対策講座（3 日）が行われます。年度があけて 4 年生になると、4 月初から日曜日に同じく全 9 回の講座があり、7 月頃行われる公立の教員採用試験の 1 次試験の準備を行います。7 月中旬からは各自治体の 2 次試験に向けた集中講座が行われます。学生たちには教員を目指すにあたって不安と感ることがないように計画的に指導を行っています。教員を目指す学生はほぼ全員教壇に立てています。

2026 年 3 月 7 日には 4 月から教壇に立つ学生を対象に「プレ教員講座」が開催されました。石川正俊学長、眞田克典教職教育センター長のご臨席のもと、25 名の学生が参加し一

人一人が 4 月から教壇に立つ決意を表明しました。夢の扉を一つ開けた学生たちはとてもよい笑顔を見せていました。教員採用試験に合格した学生はさらに多く、その中で大学院に進学する学生も増えています。今後とも教員を目指す学生を増やしていきたいと思えます。

事務局より

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務局内に置かれています。

ただし、理窓教育会専属の事務員がいるわけではありませんので、連絡等は郵送でお願いいたします。お急ぎの場合は、

「2 支部長等の連絡窓口」にご連絡ください。

書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務局内
東京理科大学理窓教育会 宛

2 支部長等の連絡窓口

教育課程指導室 平岡 盛仁(会計担当)
TEL 03-3260-4271 (内線 2784)
FAX 03-3260-1776
MAIL m.hiraoka@rs.tus.ac.jp

3 理窓教育会のホームページについて

「理窓教育会」を検索すると開きます。「東京理科大学理窓会」のホームページから入ることができます。アドレスは次のとおりです。 <http://risoukai.com/educ/>



また、左の 2 次元コードから入ることもできますので、是非ともご覧ください。

4 会費の納入について

理窓教育会は、会員の会費（年額 1,500 円）で運営されています。会費の納入は郵便振替をご利用ください。

（口座番号）00160-9-715349

（加入者名）東京理科大学理窓教育会

理振協会で文部科学省増子事務次官と面会

編集後記

ここに、理窓教育会報第 67 号をお届けいたします。

お忙しい中、支部総会報告等をお送りいただいた各支部の支部長様、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

まず一点、お詫びを申し上げます。前号で「次の 67 号は、郵送ではなくホームページ公開となります」とお知らせしましたが、間違いでした。理窓教育会報は年 1 回の発送となり、あと 1 回はホームページ公開となります。誠に申し訳ありませんでした。訂正させていただきます。

今回、2 つ目の特集は「中等教育における先進的な取組」としました。スーパーサイエンスハイスクール実施校である愛媛県立西条高等学校の大久保先生と、J S T で科学の甲子園を担当されている主任専門員の今西善徳先生に原稿をお願いしました。今西先生は、埼玉県立川口高等学校長の時に理窓教育会埼玉支部長を歴任されましたので、2 回目の登場となります。取組状況や今後の課題を理解することができました。また、西条高校の大久保先生ですが、12 月の SSH シンポジウムに合わせて、生徒さんと共に理科大にいらっしゃいました。神楽坂の数学体験館を見学し、葛飾の杉本教授の研究室を訪問され、実験に関する貴重なアドバイスをいただきました。そのご縁もあり、今回執筆をお願いしました。まだお若い先生ですが、特徴ある取組をご紹介いただきました。

さらに、若手教員ネットワークの会から岩城先生、伊野瀬先生、同窓の活躍として三浦校長先生からも原稿をいただきました。ありがとうございました。

今後も、全国の様々な先生の取組を紹介していきたいと考えております。ご協力、情報提供をよろしくお願いいたします。

（編集担当理事：松本 明）

会計担当より報告します。今年度の会費納入者数は 172 名で、昨年より 32 名多くな

りました。しかし、多い時には 200 名を超えていたので、やはり減少傾向と言わざるを得ません。今後、会報の郵送が年 1 回になるので、納入額の減少が心配です。いくつかの県は、支部でまとめて会費を納入していただいています。今後ともよろしくお願いたします。

（会計担当理事：平岡 盛仁）

5 次期学習指導要領の改訂に向けて

次期学習指導要領での導入が検討されている「調整授業時数制度」については、富岡会長の巻頭言でのご説明のとおりです。既存の教科への時数の上乘せや、新教科の設定、学習支援や教員の研究などに充てられる「裁量的な時間」の活用などが想定されているようです。導入に向けて文科省はこの 4 月から「サキドリ研究校」での研究を始めますが、2 月時点で全国の国公立小中学校、義務教育学校 332 校を指定したとのことです。期間は 2 年間。

（参考：日本教育新聞 2026 年 3 月 9 日）

下の写真は、富岡会長が日本理科教育振興協会の代表メンバーとして、文科省に申入れをした時のものだそうです。



2025年度実施（2026年度採用） 教員採用試験合格者数

2026年3月26日現在

校種	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特別支援		校種教科	合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明等	数学	理科			不明等	数学	理科	情報		
福島		1							1					0	1
群馬		2							2					0	2
栃木			1						1					0	1
茨城	1	2	2		1	1			7	1				1	8
埼玉	2	5		2				1	10	3				3	13
さいたま市			1						1					0	1
千葉		8	2						10	4	1			5	15
東京都	1	21	10			1			33	6	1		1	8	41
神奈川		6	2						8	1	1			2	10
横浜市		3	1			1			5	1				1	6
川崎市		1	1						2					0	2
相模原市			1						1					0	1
長野		1							1					0	1
愛知		2							2		1			1	3
合計	4	52	21	2	1	3	0	1	84	16	4	0	1	21	105

校種	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特支			合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明	数学	理科	不明		数学	理科	情報	不明		
2025年度	4	52	21	2	1	3		1	84	16	4		1	21	105
2024年度	7	63	18	4	5				99	11	0			11	110
2023年度	5	62	24	1	10				102	14	5			19	121
2022年度	6	56	21	1	7				91	19	6			25	116
2021年度	3	68	35		10	1	2		119	16	9			25	144
2020年度	7	73	35		11				126	9	4			13	139
2019年度	9	74	37	2	12				134	13	13			26	160
2018年度	7	75	29	2	9	1	1	1	125	8	7			15	140

表中の数字は、教諭及び常勤講師の数（非常勤講師は除く）